

投稿

### 今は懐しい空地場

酒井庄平(中学通り七十七歳)



私どもの青少年時代、ゴミ捨場を空地場(アケチバ)と言った。この空地場とは中之口川河川敷、県の所有であった。だれも所有権を持っていなかった。

この空地にみんながゴミを捨てたことから、空地場と言うようになったのだらう。

大野町は農村と違って、昔も今も敷地いっぱいに家が建てこんで、一坪の余地もない。庭のある家は珍らしい。それで、空地場が誕生したわけである。さぞかし、非衛生的であったことだらう。

さて、自動車交通が発達し、今は毎日のように清そう車を見ることのできる。町内の各地にゴミの集合場所が設けられて、みんなキチンとゴミを分けて出している。また古い話になるが、昔は数多くの伝染病が流行した。コレラ、マラリア、赤痢……、その名を聞

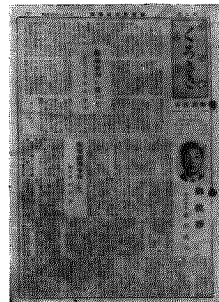
くと今もぞつとする。

当時大野新町の沖の畑地の方に被病院という建物があった。伝染病にかかった者を隔離する建物と聞かされた。五十才、六十才の人には記憶がないかもしれないが、今の興野保育所のあたりであったかと思う。伝染病がなくなった原因の一つは、ゴミの整理であらう。

ゴミ捨場のゴミは、亀田町の焼却場に集められる。この焼却場は新潟市、亀田町、横越村と黒埼町の市町村が共同で運営している。以前、見学したとき、たいへんりっぱな施設なので驚いた。また、燃えるものと燃えないものの選別に関して、黒埼町はしっかりとしていて聞かされて、内心とても嬉しかった。と同時に誇りも感じ、この誇りを長く持ち続けさせて欲しいと町、町のみなさんと清そう関係者をお願いしたい。

## 広報くろさき二百号

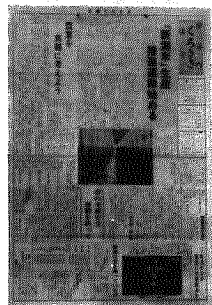
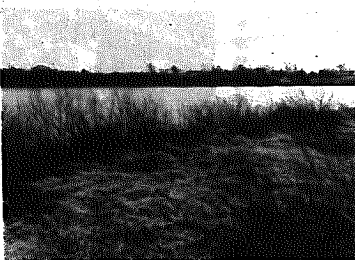
編集部から



#### ▶公民館報第一号

広報くろさきの前身で、昭和三十二年四月二十日発行。大きさは同じで6ページ。第一面は武田武夫村長(現県議)、富所平治公民館長、中村喜一教育長のあいさつが載っています。

▶中之口川河岸(金巻)



◀広報くろさき第一号

公民館報をひき継ぎ、昭和四十五年五月一日発行。タブロイド版今の二倍)で2ページ、月刊。第一面は減反、兼業などの農業問題が掲載されています。

### 作品・意見を募集

街かどでは、皆さんの作品(絵画、写真、イラスト、短歌、俳句など)や日ごろ感じられている意見を募集しています。

また、「作品や意見はあるがどうも」と思われている人は連絡してください。広報編集者が取材に行きます。

原則として必ず取りあげますのでご協力お願いします。

投稿、連絡先  
黒埼町役場 企画調整課  
黒埼町大野二八四三  
七三二〇

今号で「広報くろさき」が通巻二百号を数えました。

昭和四十五年五月に第一号を発行して以来、十一年と八ヶ月住民のみなさまに読まれてきたことをたいへん嬉しく思っております。

昭和五十五年の調査では六割の方が「毎号よく読む」と答えられ、重要性、必要性を強く感じます。

さらに、残りの四割の方にもぜひ毎号よく読んでもらおうと、いっそう努力したいと思っています。

地方の時代といわれますが、その第一歩はやはり住民のみなさんの要望を行政に反映していくこと

でしょう。編集部としても、「街かど」「声」などの欄を通じて、一人でも多くみなさんの生の声を掲載したいのです。広報くろさきはだれのものでもありません。町に住む二万町民のもので、ですから、この広報紙は二万人の場、であります。遠慮せずに、ご意見、ご要望、町の話題などお聞かせください。

なお、本年度も「社会教育とは何か」、「黒埼町の三十年後の姿は」、「黒埼町の若者像」などの特集を数多く考えています。そしてみなさんの生活に密着した内容の濃い広報紙にすることができれば幸いです。